

主が一番期待されている悟りについての話。それは「真・善・美」。

これを貫くことを悟りであるとは、あまり認識されていない。なぜならば、「真・善」だけで十分知恵になったりするから。しかし、この段階なら主が期待されている途中までの悟り。

「悟りの極致とは何か」で、

地球を中心とする太陽系の目標は現時点において二つある。

第一は限りなく知を高めていくこと。正しき心の探求としての四正道に繋がっている。知の探究として次から次へといろいろ教えてくださっている。知的な進化ということの一つの大きな目標として掲げている。

もう一つは大調和。「調和を実現することです。これは美へと繋がっていくことです。知と美を目標として掲げています」

知の探究と美の探究があって、第一段階として「真・善」をやりましょう。そのあと、これをベースとして「真・善・美」を貫いた修行に入る。

1986年 初転法輪 第一声を発せられ、今後50年、法を説くとおっしゃられた。半分に割れば25年、1986年から25年後は2011年。その2011年に説かれたのが「美について考える」。ここから本格的に、もう一度、美を押し出していきますよ、ということで教えは始まっている。

2011年は、様々な重要ご法話が説かれた。「富の法」「マインドセットを変えよ」「無限の富を宿す瞑想法」など。この瞑想法のなかで特徴的なのが若返り。10年後、20年後、30年後とだんだんビジョンを描きにくくなる。なぜなら地上の寿命があるから。そこで主は30歳若返りなさい、若返ってもう一度30年後と思ったら今の自分でしょう。そうしたらもう一度やろうという意欲がわいてくるとおっしゃった。

その後、主は結婚されて、50年法を説くと言っていたのが、60年説かれることに変わった。

60年法を説くということは、去年までが前半の30年、今年(2017年)から後半戦になった。

今年の1月に「マスターの条件を考える」(『真実の霊能者』第二章所収)が説かれた。宗教的リーダーをはじめ、組織のリーダーになる人の条件として最初に出てくるのが「真・善・美のあくなき探究」。これはみんなが目指さなければいけない方向性。「真・善」で止めてはいけない。

2月に「信じる力」という大講演会があった。ここで「幸福の科学」の30年を振り返られて、前半の30年はアマチュアの時代だった。これからはプロフェッショナルな時代だと言われた。アマの修行とプロの修行を分けるのは美の修行にある。美の修行に入ることがプロの修行に入るための重要なテーマ。

また、HSU入学式では「新時代の向けての美の探究」(『光輝く人となるためには』第二章所収)。世界の様々なリーダーになっていくためには美の探究にあるということを忘れてはいけない。今まで頑張ってきている信者の皆様にも「真・善」で止めることなく、美も忘れないように学んでくださいとおっしゃっている。

NSP(ニュースター・プロダクション)の理念は「新時代における美の創造」。芸能系に繰り出していくテーマは世の中に美そのものを映像として提供していくという意思表示。

なぜ二つも芸能プロダクションを作ったのか。

初期の頃の講談社フライデー事件は信仰すべき仏陀を貶めたことに対して立ち上がった。講談社というのは、文字媒体を中心の芸能系に対するアプローチ。千眼さんは後半戦の象徴的な事件として起こっている。

なぜ芸能系に対して意識を向け、芸能革命を起こしているか。それは幸福の科学がいくら正しいことを伝えてもメディアの黙殺が続いているから。マスコミがきちんと報道していれば、すでに実現党の国会議員はいるはず。

マスメディアに対して発信するコメンテーターは様々な契約のもと芸能事務所から派遣されている。つまり、マスコミの背景にあって力を持っているのは芸能事務所。ここに闇があるので、この部分に光を入れていこうということで、今、一番力を入れている。そうすることによって正しい報道がなされて、幸福の科学、実現党の言論が正当に扱われるようになる。一気に言論を変えていける。

主は非常に緻密に大きなスケールで戦略を立て、具体的に手を打ってくださっている。

みんなが考えている美と主がおっしゃっている「真・善・美」とはギャップがある。これを分かりやすく理解するために教えていただいているのが『パンダ学入門』。このなかで、主というのは非常に度量、器の大きな方だとおっしゃられている。つまり清濁あわせ持った大きな度量の方だと表現されている。

「真・善・美」というのは段階的な悟りになっているので、勉強すると段々と善悪が分かって、正しい方向性を選び取るという能力が上がる。しかし、今、私たちがやっているのは、善悪までの段階なら悪を捨てて善を取りましょうということ。これは「意見が違えば、私が正しいければ、相手は間違っている」になる。悪は切って私の意見を主張するということになる。これをやっている限り、ある程度のところまではいくが、もう一段スケー

ジを上げるためには、この境地だけでは難しい。

選挙もそう。実現党がいくら政策を訴えても、言えば言うほど、相手の間違っているところが明らかになる。

でも、違っていることがあるのは分かった上で、「この部分是一緒じゃないか、ここの共通するところで手を組めるのではないか」「一緒にここを実現するために信じてほしい」というマインドになったならば、支持者に取り込むことはできる。

つまり、「真・善」の選挙運動をしているだけでは限界がきていて、全てに賛同する人だけでは大多数は形成できない。「真・善」の活動だけやって頭打ちになっているならば、向かうべき方向性は「真・善・美」を貫いた悟りを様々な救世活動の中に展開していかないと限界がきている。薄氷一枚で、今、頭打ちになっています。薄い氷とはいえ大きな氷。これを打ち破るには、「マインド転換」と「真・善・美を貫く悟り」。

「マスターの条件を考える」の2点目は、

人生の過程で試練があります。「真・善・美」を求める心を生涯追い求めつつ、一本の信仰心を貫いてほしい。つまり、「真・善・美」の修行に入ると一本の信仰心で貫かれてくる。善悪だけなら、自分の意見と主の意見が違ったら信じられなくなる。

「真・善・美」の修行に入ると、自分には分からないけど、受け入れてみようというマインドに繋がっていく。

人は、理解できる部分は受け入れてみようと思う。理解を超えたところへの対応をどうするかということのなかに「分からないけど受け入れてただ素直についていく」というマインドが必要。それについては『君よ、涙の谷を渡れ』のなかで、「ただ素直についてきてください。判断しなくていいです」と言われている。

判断しないで受け入れるけれども、なぜ、主はこのようにことを言われるのだろうか、自分なりに考えないといけない。判断はしないけど考えるというのは難しいこと。判断しないで、考えないでついていったら、知恵にならない。

「君のまなざし」のなかで、「真・善の救済」と、「真・善・美の救済」が描かれている。

宏洋社長は新時代の美の創造を表現された。映画の中の美は清濁あわせ持つ姿。

真・善でなつき（手塚里美）は救えた。罪を犯した、でも、反省しているならば、神をあなたの罪をすでに許してくれているということを教えたら救われた。

しかし、旭飛（道円）は真・善を伝えても、「頭ではわかっている。でも気持ちがついていかない」と言っていた。頭で分かっているものを心に落とすものは、「あなたの正しいところも間違ったところもある。でも、清濁併せ吞んで、あなたに幸せになってもらいたい、救いたい」と思って抱きしめた時に、一粒の涙が落ちて相手を悟らせることができた、と描かれている。

「真・善」で救える人もいるからこれも重要。しかし、「真・善」だけでは納得しない人を救っていくには、「真・善・美」の清濁併せ吞むまでいく人が増えてこないといけない。

なぜ、鬼の姿をしていて美なんだと思うけれども、清濁併せ吞んでお互いを見つめあっていこうという世界観を実現していこうということ。

地獄なんて汚い、地獄に堕ちた魂は消滅させればいいと主が思われたら消滅させられる。そうすると、地上に出ては一定の割合で消滅させられていけば美しい世界にはなるが、天国がどんどん縮小していく（大調和ではなく小調和）。だから、主は地獄さえも支えておられる。清濁併せ吞み、地獄さえも支えて私たちの魂修行を見守り続けておられるのがエル・カンターレ。

あなたも第一段階において、真理を学んで何が正しいか分かってきました。で、今までは間違っただけのものとして切り捨てるというマインドを持っていました。

でも、これからはそうではなく、それさえも支えて入れてあげる。そういう人たちが増えてきて、全体で支えることができるならば、天国だけでなく地獄も支えることができるようになりますよということ。こういう組織をつくっていかない限り、全人類救済までは届かない。言葉では地域の全ての人を受け入れていこうというけれども、「でもこの人は無理」とか、こういうマインドで救世運動の限界がきている。

本当にすべての人を受け入れるということは、自分では理解できないけれど、それを分かった上で受け入れようということ。白・黒がはっきりした上で、認識できた上で受け入れようというマインド。

知恵がなくて、初めから美の修行で皆救いましょう、助けてあげましょうとなったら、白黒（善悪）の判定がつかないまま混ぜてしまう。白黒が分かった上で受け入れるのがパンダ。白黒の境なく受け入れたら灰色熊になってしまう。これを最初からやるには無理がある。段階があって、悟りのレベルが上がってきたので、修行をやり続けてきた人にとっては、次のステージを目指さなければいけない。

「真・善・美」を貫く修行をすると、サタンの攻撃を受けても挫けない。この世の地上の信仰を持っていない人からの攻撃、弾圧を受けても挫けない。あるいは、弟子のなかで混乱が起きたり、教団分裂の動きとか様々な妨害とか起きてくるとは思うが、そういういろんなものを経験しつつも、挫けずにやり続けていく力を持っているということが大事なことです。

この、やり続ける力、貫いて信仰を本物にしていくために、「真・善」だと意見の違いが出てくるから、「真・善・美」を貫いた信仰でもって、もう一段大きな教団をつくってほしい。これが、主が期待されている、皆さんが目指してほしい悟り。

プロとアマの違い。修行のテーマとして今何があるかという、サタンの攻撃という言葉の主よりいただいているが、「降魔成道」になる。この降魔成道に取り組む姿勢によってアマとプロが分かれてくる。

去年は降魔成道を象徴する名古屋正心館の落慶があった。降魔成道というのを皆さん認識されているかどうか。

たとえば、昨日頑張りすぎたから体調が悪いなあと思ったらアマ。何か霊的な影響を受けているかなと認識しないかぎり、弾き飛ばすことはできない。ですから、風邪をひいたら、普通は病院に行って薬をもらうのは間違っているわけではない。が、風邪も憑依だと教わっている。風邪をひいたということは憑依を受けたということ。風邪を引いたと思ったということは、憑依を受け入れたということ。これは憑依だ、嫌だな、弾き飛ばしたいと思ったら、霊的な意識が目覚めているということ。細かいことだけど、様々な形で霊的な影響を受けているということを確認するということがまず大事。

主はずっと霊的なバリアーを張って守ってくださっていた。しかし、プロの修行者になるということは、自分でやりなさいねということでバリアーを弱められた。そうすると、皆それぞれにふさわしい形で降魔成道の修行が始まる。

太陽の光が当たると、三次元の光だから地上に肉体の影ができる。霊的な光が当たると霊的な影が自分の足元ができる。それは、あなたの人生修行とか今世における目標とか、克服すべきテーマが明かになってくるということ。降魔成道の修行は菩薩を目指したいと誓願された以上、足元に現れてくる。

日本に光を降ろしていると、仏教的、神道的な闇が出てきて、それを克服する段階を踏んできている。そこで、そろそろ本格的にキリスト教圏の先進国に光を投げかけたいと思われた。

それは去年夏、ガンジーの霊言のなかで「この秋、ニューヨークに行って説法する」とおっしゃった。夏にそれを言われたということは、ずっと前から計画が始まっていたということ。主が思われた瞬間、霊速で光は流れたはず。強い光が流れたので、当然、闇が濃くなる。キリスト教系の闇が跋扈する。

去年、相模原の事件が起こり、霊査された。背景にいたのはニーチェだった。そして、「怪奇現象リーディング」を撮ったら背景にアステリア（女性の三大悪魔の一人）がいた。千眼さんのところにも来た。秋口、実現党の迫害、霊査したら背景にはナチズム、キリスト教の黒魔術。

キリスト教圏に光を送り、キリスト教の浄化に意識を向けたから動き出した。キリスト教の闇なので、イエスに「あなたがなんとかしなさい」と、去年の暮れに「悪魔払い祈願」が降ろされた。

降魔成道の修行の姿を見せつつ、自力だけでは厳しければ他力という応援もありますよということで、降魔成道という修行をサンガ全体でやっている。皆さん個人にも、解決すべきテーマは現れてませんかということが、あぶりだされる。

これから、本格的なプロの降魔成道の修行。

このときに、悪魔は汚いと蹴り捨てるだけでは克服できない。清濁併せ呑むというマインドを持ちつつ、美の光でもって覆っていくと、戦わずして悪魔は存在できないという空間を創ることができる。

小野小町の霊言では、K氏が出てきたので論破しようとしたがなかなか帰ってくれない。その時に小野小町の霊を降ろして美を語らせた。そうしたら、退散した。

美の修行は戦わずして勝つというマインドに通じていく。

皆さんのなかにある美に反するもの、貧乏神もそう。

宗教的な魂のなかには、これまでも富に対して肯定的な意識を持っていない。つまり、仏教はこの世の執着を断つ修行なので、この世の執着の大きなテーマは縁。親子・兄弟などの縁、それと富の部分は執着の種になりやすい。これを切って修行に入るとするのが間違いのないものだった。だから出家がある。なので、富に対しては知らない間に切っている。

「富、無限」と言わないといけない。言うとうなるかといったら、頭では富が大事だと分かっている。しかし、「そこそこにしてくれ」「ついていけない」と心のなかから出てくる。言ったから出てくる。言わないと貧乏神と一体化しているので分からない。気が付くところから克服がはじまる。気がつかないと、今世も一体化したまま、来世も一体化のまま。

それはなぜか。過去の人生も100点満点の人生ではないから。だから、60点だとしたら、40点分の課題がある。富については難しかったので、ずっと負の遺産としてもってきた。だから魂の兄弟も多くのパターンは、富に対して克服しようと思わないので、蓋をして降りてきている。

それをエル・カンターレの時代だから、そこまで炙り出して、その部分まで修正をかけようと修行している。

だから、今世の修行でありながら、魂の修行のなかで残してきた部分さえも問題集として取り上げようとして

いる。今世の修行は過去世の修正。

ここで大切なのは清濁併せ呑むということ。

今、私が経済的苦境にあるのは、こんな状況に追い込まれているのは「過去世に魂の兄弟が貧乏波動だったから」だとか思ったら「おまえは間違っている」というふうになって切って捨てることになる。霊的には切って捨てられたら出てこない。霊的存在は切られたら瞬間に消える。

切っているのに、魂の兄弟に目覚めてくださいと言っても無理。ここに表面意識と潜在意識の矛盾点がある。

霊性革命で「魂の兄弟を目覚めさせてもっと異次元パワーを発揮するんだ」と頭では分かっているけど、やっていることは、その法則を切っている。だから「真・善」だけだったら切る傾向が強い。

「あなたが頑張ってくれたから、今、私のこういう時代がきた。でも、ここに課題があるよね。お互いにここを克服していきましょう」と思って、抱きとめてやった時に初めて過去世の魂修行の修正になる。

宗教的な人が集まってくると富の部分が共通の修行テーマになる。サンガ全体で2011年から富に対する課題を潜在意識の部分まで含めて修行していきましょうということが始まっているので、その年のスタートに「富の法」が説かれている。

「富、そこそこ」でいいという思いが出てきたら、「あなたがいるから、私が今こんな状態なのだ」と切らないでほしい。「あなたが頑張って信仰を貫いてくださったから、私の今世の転生がこうやって成立している。でも、エル・カンターレは富をこよなく肯定されていますよ。富が集まれば、集まるほど、救世運動のスピードが早くなるんですよ。だから一緒に、今世、エル・カンターレの発展の法のなかの富に関する考え方をしっかりと一緒に学びましょう」と清濁併せ呑んで、魂の兄弟を抱きしめてほしい。

仏陀の時代の2500年前はそうだったかもしれないけど、イエスの時代2000年前はそうだったかもしれないけど、4300年前のヘルメスの時代はすごく富を愛していた時代。そういう意味では、そこを受け止めていくと、その下にいる意識が目覚めてきやすくなる。「私のなかにも富をこよなく愛する部分があったね」と。

こういう悟りを得られる人が増えてきて、豊かさと親和性のある人が集まる支部は豊かさを引き寄せてくる。頭では理解できているが気持ちがついていかないとは、こういうことを言っている。

「真・善・美」を貫く伝道とは。

箱根噴火リーディングのなかで、「首都圏の人たちは死にたいんだろう」と言われている。

私たちの表面意識は死にたいと思っていない。でも、なぜか神様には死にたいというふうに伝わっている。それは、頭では分かっている、でも気持ちがついていかない人がいっぱいいるということ。信仰していてもそうなるから、信じていない、まだ目覚めていない人は、頭でも理解しないし、心でも理解していない人が多い。

そうすると、どうなるか。

「伝道論」のなかで、「この日本という国に生まれている方は、かつて仏教を学んでいた人が8～9割はいる。だから自信を持って伝道しましょう」と言われている。しかし現実には、「関係ない！」とけんもほろろの人がほとんど。その時にどういうマインドでその人に接するかということ。

かつて、仏教を学んで亡くなったら仏教霊界に還る。その時に教えてもらっているのは、「あなたが信仰したお釈迦様のその奥に久遠実成の永遠の仏陀という方がいらっしゃる。その方が日本という国に生まれる予定なんだよ」「それならば、私たちは仏教に縁があるのだから、その時に降ろしてほしい」と計画書に書いて多くの人たちが応募した。そして、そのなかで合格して選ばれた人だけが日本に生まれている。

しかし、それだけの決意をして降りてきたにも関わらず、目覚めていない人が一杯いる。その時にどうなるかというと、潜在意識は「今でも罪をつくっているのに、さらなる罪を犯させるべきなのか」と思う。

日本に生まれて、使命を果たしたいけど果たしていない。ましてや邪魔までしているなら、このままだともっと大きな罪をつくる。早く引き上げたいと多くの人の潜在意識が思ったら「早く死なせてください」という集合想念になる。

じゃ、仕方ないと諦めるか。

私たちがより霊的な視点で相手を見ることができれば、表面意識はこう言っている。でも潜在意識が願っているなら潜在意識の願いに応じてあげる。その思いを私たちは受け止めたいと思って、清濁併せ呑んで、駄目だとか否定してきた人たちも受け止めてあげる。一回で成功しないとしても、何回言っても難しい時に、今までは無理かなと切っていた。そうじゃなくて、清濁併せ呑んで受け止めてあげてほしい。そうしたら違った誰かからアプローチを受けて目覚める可能性が残っている。

だから諦めない、信じ切る世界を目指して何度もチャレンジを続けて、でも、現実がそこに至らないとしても、切らないで、チャンスとして思いだけは残してあげる。こういうマインド、これが「真・善・美」を貫いた伝道者のマインド。

こうして、富についても、伝道についても、このレベルまで目指す人が増えてくるのが大切。選挙もそういうマインド。ここに入ってくないと、今、頭打ちになっている様々な問題克服することはできない。